

福本日南 フクニチナン 史論家、歌人。安政四年五月二十一日筑前國生れ、大正十年九月一日歿（一八七〇—一九二一）。本名誠、初名巳。別號刺鎌舎、日南學人、日南狂夫、赤白辯論之人、青大布衣等。司法省法學校、小學ぶと、明治十一年學校檢勸の浪學。政教社同人となり、二十一年新聞「國會」記者、二十八年と洋社檢關紙「九州日報」主筆、四十一年衆議院議員、のち「新編新聞」主筆。フイリピンに渡るなど南方公關のき有功だが、後年は史論家として名を高め、大正五年には中央義士會を興した。

著書「普通民權論」（福本巳名、明治十一年十一月福岡・延徳堂）、

「今世海軍」（本名、明治二十八年一月十五自博文館）、「山紫水明」

（合著・研學會編、明治二十年五月、二十五自陸軍受驗講義録編輯所

「研學叢書」）、「秋聲白露」（合著・研學會編、明治二十一年十一月

月九日研學會「研學叢書」）、「香雪紫雲」（合著・研學會編、明治

二十一年一月五日會館澤梅編輯、修學堂發賣「文範叢書」）、「新

建國」（本名、明治二十二年一月、二十一年自博文館）、「日南」

（明治二十二年四月十四自博文館）、「先覺詞藻」（同、合著・進藤信

義編、明治二十四年十月十一日阪鍾美堂本店・鍾美堂支店）、「愛國

本義」（同、明治二十七年五月、二十

四年金港堂書籍株式會社）、「黒田

如水」（明治四十四年五月一日東京亞

堂書房）、「袖元祿快舉録」（明治

四十四年七月、二十二年啓成社）、「國

體の本義」（本名、明治四十四年九



月十五自啓成社)、 『英雄論』 (明治四十四年十一月一日東京亞聖書房)、 『白南草廬集』 (明治四十五年四月一日岡部春秋堂)、 『大閑とカイゼル』 (大正元年八月十五日岡部春秋堂)、 『石臼のへそ』 (大正二年八月二日東京亞聖書房)、 『豐太閤』 (大正二年九月二十三日植竹書院)、 『大勢史眼』 (大正四年二月八日全誠堂書店)、 『粟山大膳』 (大正四年九月五日實業之日本社)、 『清教徒神風連』 (大正五年九月五日實業之日本社)、 『服部安兵衛』 (大正六年五月十五日中央義士會、 四方社發賣)、 『大阪陣・前編』 (大正七年五月二十日南光社出版部)、 『現代思想とこの國の大本』 (大正九年四月四日中央報徳會)、 『大阪城の七將星』 (大正十年四月二十日文會堂書店)、 『娜大津より大室府へ』 (故中嶋娜津子記念編) (公署、 大正十一年七月二十七日中嶋利一朗編輯、 琳琅書屋)、 『元祿快擧録』 全三冊 (上篇・昭和十四年十一月十四日、 中篇・十五年五月七日、 下篇・十一月十五日岩波書店「岩波文庫」)、 『菅沼貞風略傳』 (昭和十六年十一月五日東京地球協會「東京球資料」)、 『白南歌集』 (今田哲夫校註、 昭和十七年十一月一日春陽堂書店「新文庫」) 等。